

御影堂

浄土真宗の開祖である親鸞（1173-1262）を祀っている御影堂。浄土真宗の大谷派の本山である東本願寺の境内で最も大きく、重要な建物である。

中心で安置されているのは親鸞自身が彫ったとされる木像。この木像は、彼の子孫が毎朝鍵を開けて開く厨子に納められており、昔からの習慣となっている。

お堂はその前身が火災で失われた後、1880 年から 1895 年にかけて建てられた。正面 76 メートル、側面 58 メートル、高さ 38 メートルの世界最大級の木造建築物で、3,000 人もの人々が集うことができる。屋根は入母屋造りで 2 階建てのように見えるが、低い方の屋根は装飾である。